

重点取組分野	令和 元 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
生きてはたらく知	①校内授業研や小中ブロック授業研等を通して授業公開し、生徒が主体的に取り組む授業を目指す。②少人数やTT授業等を通して基礎基本の定着やきめ細かな学習支援の充実を目指す。③単元の中で、計画的・意識的に生徒の思考力・表現力を育成する。④学校評価による授業改善を行う。	①校内授業研と小中一貫教育推進ブロック授業研を各1回実施し、参加者の感想意見を基に授業改善に役立てた。②校内研修会「新教育課程に向けての授業力向上について」での協議を通して主体的・対話的な学びの授業展開における試行の大切さを学んだ。③学校・地域コーディネーターの協力を得て放課後自習室を開設し、学習支援の充実を目指した。	B
豊かな心	①道徳科を中心に全ての教育活動を通して豊かな心の育成を意識的に取組む。②学校行事や部活動を通して仲間と心から向き合うことを大切に、人権作文や福祉体験等を通して多様な価値観、人権感覚を育む。③小中交流や地区懇談会、PTA祭など地域とふれ合う活動を大切にしている。	①道徳科を中心に全ての教育活動を通して豊かな心の育成を意識的に取組んだ。②学校行事や部活動を通して仲間と心から向き合い、人権作文や福祉体験等を通して多様な価値観、人権感覚を大切にしている。③小中交流や地区懇談会、PTA祭などの地域とふれ合う活動を大切にしている。	B
健やかな体	①授業を通して発達段階に応じた補強運動を行い総合的な体力向上を目指す。②運動の楽しさ、身体を動かすことの意味を理解させ、体育的行事や部活動、地域スポーツ等に積極的に主体的に参加できる生徒を育成する。③自己の健康管理と、仲間の体調にも気づける生徒を育成する。	①体育実技の開始時にランニングと補強運動を継続的に実施し、体力向上に努めた。②授業の中で学習カードを記入することで、楽しさや運動の意味を確認し、主体的に体育的行事や部活動に参加する生徒育成に努めた。③保健安全委員による毎朝の健康観察を実施し、自己や仲間の体調面、健康管理を意識して生活を送る生徒育成を目指した。	B
生徒指導	①定期的な教育相談日設定と仕組みアンケート実施により、生徒が発するSOSをいち早くキャッチできる指導体制を整え、感性と初動を大切に、組織的に取り組む。②生命、安心安全を最優先し、迅速な報告・連絡・相談・記録を怠らない。③研修会を複数回実施し組織的な対応を目指す。	①教育相談日の設定や仕組みアンケート実施により、生徒が発するSOSをキャッチできる体制を整え、感性と初動を大切に、組織的に取り組むことができた。②生命、安心安全を最優先し、週1の報告会で各学年で情報共有し、職員会議で全体共有を行った。③研修会を受ける機会を設けようとした。	B
特別支援教育	①特別支援委員会及び金1情報交換会の定期開催と充実を図り、配慮を要する生徒に寄り添ったきめ細かい対応を進める。②カウンセラーや関係機関と密な連携を取りながら適切な支援方法を探り、指導の充実を図る。③定期的な講師招聘型の校内研修会を通して支援や指導の充実を図る。	①特別支援委員会及び金1の情報交換の定期開催と充実を図り、配慮を要する生徒に寄り添った対応を進めることができた。②カウンセラーやsswの方と密な連携を取りながら、指導の充実を図り、成果を上げることができた。③学年ごとの校内研修会を行い生徒理解に努めることができた。	A
地域連携	①学地連携事業を中心に児童生徒も参加する地区懇談会や地域清掃などを推進する。②下校時や祭りのパトロールを保護者・地域と連携して行う。③生徒が地域防災訓練や地域行事などに参加・貢献できるよう郷土愛や自立精神を育成する。④定期的な「まち懇」や主任児童委員会の充実。	①地区懇談会には児童生徒の他、教職員や保護者、地域の方々が多参加され有意義な話し合いを行うことができた。地域清掃は、次年度の実施方法について再検討が必要。②地域の行事等に参加することができたが、さらに子ども達が積極的に参加していただく呼びかけていきたい。④学校に関わっていた方々から様々な意見を伺うことができた。	B
キャリア教育	①地域の教育力をいかし、1年職業講演会、2年職場体験学習、3年主権者教育を実施し、社会人としての基礎や生きる力の育成を図る。②校内フロアや図書館に進路情報コーナーを設け、生徒が必要な情報をいつでも得ることができる。③キャリア教育についての情報発信を進める。	①地域の教育力をいかし、社会人としての基礎や生きる力の育成を図ることができた。また、3年は自らの進路を考え、選択することができた。②校内フロアや図書館に進路情報コーナーを設け、生徒が必要な情報を得られるように努めた。③キャリア教育の情報発信を進めた。	A
教育課程	育成すべき資質・能力を明確化し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を推進するため、①学校評価を活用したカリキュラム・マネジメントの推進。②小中ブロックを活用した共通した資質・能力の育成。③キャリア教育等を通じた理念「社会に開かれた教育課程」の具現化。	①学校評価を活用したカリキュラム・マネジメントはあまりできなかった。②小中ブロックでは、小学校では来年度から新教育課程になる。小学校で新しくなると中学校での内容を確認し、共通した資質・能力の育成をめざそうと話し合うことができた。③新教育課程に向けて、各教科で本校で育成しようとする4つの観点をどの学年、どの内容で身につけさせるかを話し合った。	B
いじめへの対応	①「いじめは絶対に許さない」意識を徹底し、未然防止、早期発見、早期解決に組織的に取り組む。②いじめ防止対策委員会による迅速、確実な情報共有と対応。③研修会等を通していじめに対する態度を上げる。④定期アンケートと面談を実施し実態把握に努め、保護者との連携をとる。	①教職員がアンテナを高めて子ども達を見守ることができた。また子ども達が相談しやすい雰囲気づくりに努めることができた。②毎月のいじめ防止対策委員会での情報共有を細目に行うことができた。③職員研修の時間を確保することが難しく単発な研修しか行えなかった。④定期的にいじめアンケートを実施し、生徒の実態把握に努めることができた。	B
人材育成・組織運営(働き方改革)	①講師を招聘し研究授業や課題研修を計画的に実施しキャリアステージに応じた教師力向上を目指す。②管理職、主幹によるタイムリーなミニ研修会の実施。③校務分掌改善と組織の効果的運営を図り、教職員の学校運営への参画意識を高める。④職員室Aの活用、部活動休養日設定、閉庁期間拡大、留守電設定など働き方改革を推進。	①講師を招聘し、教師力向上を目指した課題研修を実施した。②管理職によるタイムリーなミニ研修会を実施した。③校務分掌改善と組織の効果的運営を図り、教職員の学校運営への参画意識の向上に努めた。④職員室Aの活用、部活動休養日設定、閉庁期間拡大、留守電設定など、働き方改革を推進した。	A

重点取組分野	令和 2 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
生きてはたらく知	①校内授業研や小中ブロック授業研等を通して授業公開し、生徒が主体的に取り組む授業を目指す。②少人数やTT授業等を通して基礎基本の定着やきめ細かな学習支援の充実を目指す。③単元の中で、計画的・意識的に生徒の思考力・表現力を育成する。④学校評価による授業改善を行う。	①校内授業研や小中ブロック授業研等を通して授業公開し、生徒が主体的に取り組む授業を目指す。②少人数やTT授業等を通して基礎基本の定着やきめ細かな学習支援の充実を目指す。③単元の中で、計画的・意識的に生徒の思考力・表現力を育成する。④学校評価による授業改善を行う。	
豊かな心	①道徳科を中心に全ての教育活動を通して豊かな心の育成を意識的に取組む。②学校行事や部活動を通して仲間と心から向き合うことを大切に、人権作文や福祉体験等を通して多様な価値観、人権感覚を育む。③小中交流や地区懇談会、PTA祭など地域とふれ合う活動を大切にしている。	①道徳科を中心に全ての教育活動を通して豊かな心の育成を意識的に取組んだ。②学校行事や部活動を通して仲間と心から向き合い、人権作文や福祉体験等を通して多様な価値観、人権感覚を育む。③小中交流や地区懇談会、PTA祭などの地域とふれ合う活動を大切にしている。	
健やかな体	①授業を通して発達段階に応じた補強運動を行い総合的な体力向上を目指す。②運動の楽しさ、身体を動かすことの意味を理解させ、体育的行事や部活動、地域スポーツ等に積極的に主体的に参加できる生徒を育成する。③自己の健康管理と、仲間の体調にも気づける生徒を育成する。	①授業を通して発達段階に応じた補強運動を行い総合的な体力向上を目指す。②運動の楽しさ、身体を動かすことの意味を理解させ、体育的行事や部活動、地域スポーツ等に積極的に主体的に参加できる生徒を育成する。③自己の健康管理と、仲間の体調にも気づける生徒を育成する。	
生徒指導	①定期的な教育相談日設定と仕組みアンケート実施により、生徒が発するSOSをいち早くキャッチできる指導体制を整え、感性と初動を大切に、組織的に取り組む。②生命、安心安全を最優先し、迅速な報告・連絡・相談・記録を怠らない。③研修会を複数回実施し組織的な対応を目指す。	①定期的な教育相談日設定と仕組みアンケート実施により、生徒が発するSOSをキャッチできる体制を整え、感性と初動を大切に、組織的に取り組むことができた。②生命、安心安全を最優先し、週1の報告会で各学年で情報共有し、職員会議で全体共有を行った。③研修会を受ける機会を設けようとした。	
特別支援教育	①特別支援委員会及び金1情報交換会の定期開催と充実を図り、配慮を要する生徒に寄り添ったきめ細かい対応を進める。②カウンセラーや関係機関と密な連携を取りながら適切な支援方法を探り、指導の充実を図る。③定期的な講師招聘型の校内研修会を通して支援や指導の充実を図る。	①特別支援委員会及び金1の情報交換の定期開催と充実を図り、配慮を要する生徒に寄り添った対応を進めることができた。②カウンセラーやsswの方と密な連携を取りながら、指導の充実を図り、成果を上げることができた。③学年ごとの校内研修会を行い生徒理解に努めることができた。	
地域連携	①学地連携事業を中心に児童生徒も参加する地区懇談会や地域清掃などを推進する。②生徒が地域防災訓練や地域行事などに参加し、保護者や地域の方との関わりながら郷土愛や自立精神を育成する。③定期的な「まち懇」の実施や主任児童委員の方々の授業参観等の充実。	①学地連携事業を中心に児童生徒も参加する地区懇談会や地域清掃などを推進する。②生徒が地域防災訓練や地域行事などに参加し、保護者や地域の方との関わりながら郷土愛や自立精神を育成する。③定期的な「まち懇」の実施や主任児童委員の方々の授業参観等の充実。	
キャリア教育	①地域の教育力をいかし、1年職業講演会、2年職場体験学習、3年進路学習や主権者教育を実施し、社会人としての基礎や生きる力の育成を図る。②校内フロアや図書館に進路情報コーナーを設け、生徒が必要な情報をいつでも得ることができる。③キャリア教育についての情報発信を進める。	①地域の教育力をいかし、1年職業講演会、2年職場体験学習、3年進路学習や主権者教育を実施し、社会人としての基礎や生きる力の育成を図る。②校内フロアや図書館に進路情報コーナーを設け、生徒が必要な情報をいつでも得ることができる。③キャリア教育についての情報発信を進める。	
教育課程	育成すべき資質・能力を明確化し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を推進するため、①学校評価を活用したカリキュラム・マネジメントの推進。②小中ブロックを活用した共通した資質・能力の育成。③キャリア教育等を通じた理念「社会に開かれた教育課程」の具現化。	育成すべき資質・能力を明確化し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を推進するため、①学校評価を活用したカリキュラム・マネジメントの推進。②小中ブロックを活用した共通した資質・能力の育成。③キャリア教育等を通じた理念「社会に開かれた教育課程」の具現化。	
いじめへの対応	①「いじめは絶対に許さない」意識を徹底し、未然防止、早期発見、早期解決に組織的に取り組む。②いじめ防止対策委員会による迅速、確実な情報共有と対応。③研修会等を通していじめに対する態度を上げる。④定期アンケートと面談を実施し実態把握に努め、保護者との連携をとる。	①「いじめは絶対に許さない」意識を徹底し、未然防止、早期発見、早期解決に組織的に取り組む。②いじめ防止対策委員会による迅速、確実な情報共有と対応。③研修会等を通していじめに対する態度を上げる。④定期アンケートと面談を実施し実態把握に努め、保護者との連携をとる。	
人材育成・組織運営(働き方改革)	①講師を招聘し研究授業や課題研修を計画的に実施しキャリアステージに応じた教師力向上を目指す。②管理職、主幹によるタイムリーなミニ研修会の実施。③校務分掌改善と組織の効果的運営を図り、教職員の学校運営への参画意識を高める。④職員室Aの活用、部活動休養日設定、閉庁期間拡大、留守電設定など働き方改革を推進。	①講師を招聘し、教師力向上を目指した課題研修を実施した。②管理職によるタイムリーなミニ研修会を実施した。③校務分掌改善と組織の効果的運営を図り、教職員の学校運営への参画意識の向上に努めた。④職員室Aの活用、部活動休養日設定、閉庁期間拡大、留守電設定など働き方改革を推進した。	

重点取組分野	令和 3 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
生きてはたらく知	c1		
豊かな心	c2		
健やかな体	c3		
生徒指導	c4		
特別支援教育	c5		
地域連携	c6		
キャリア教育	c7		
教育課程	c8		
いじめへの対応	c9		
人材育成・組織運営(働き方改革)	c10		
ブロック内評価後の気付き			
学校関係者評価			
中期取組目標振り返り			

・学校と家庭・地域の連携は密に行われている。
 ・挨拶や基本的な生活習慣が身に付いている生徒が多く、ほとんどの生徒は学習や行事、部活動等に意欲的をもって、一生懸命に取り組んでいる。
 ・基礎的・基本的な知識の習得はできている生徒が多いが、思考力・判断力・表現力を必要とする場面でも苦手意識をもっている生徒が多いことが、今後の課題と言える。
 ・分かりやすい授業や相談しやすい先生というのは、先生によっても異なる。

・学校と家庭・地域の連携は密に行われている。
 ・挨拶や基本的な生活習慣が身に付いている生徒が多く、ほとんどの生徒は学習や行事、部活動等に意欲的をもって、一生懸命に取り組んでいる。
 ・基礎的・基本的な知識の習得はできているが、思考力・判断力・表現力を必要とする場面でも苦手意識をもっている生徒が多い。新学習指導要領の要となる資質・能力をどのように身に付けさせていくかが、最も重要な課題である。

・学校と家庭・地域の連携は密に行われている。
 ・挨拶や基本的な生活習慣が身に付いている生徒が多く、ほとんどの生徒は学習や行事、部活動等に意欲的をもって、一生懸命に取り組んでいる。
 ・基礎的・基本的な知識の習得はできているが、思考力・判断力・表現力を必要とする場面でも苦手意識をもっている生徒が多い。新学習指導要領の要となる資質・能力をどのように身に付けさせていくかが、最も重要な課題である。